

新青梅街道の路面補修における苦慮した施工の取組等について ～一般利用者及び地元住民への負担軽減～

1. はじめに

建設局では、道路機能を持続的に確保するために定期的に路面補修工事を行い、良好な路面状態を保つことで事故のリスクを減らし、安全性を向上させている。

さらに道路の改良や、舗装工事と合わせて自転車通行空間の整備を行うことで、自転車や歩行者の通行の安全確保とともに、地域の発展にも貢献している。

しかしながら、これらの工事を行う上で避けては通れないものが、道路を利用する一般の方、沿道でお住いの地元住民への影響・負担である。

今回の新青梅街道では、適切に路面補修工事を行いながら、一般利用者及び地元住民に対しての影響・負担をなるべく軽減させるように様々な取り組みを実施した。

2. 工事の中で実施した取組について

今回の工事は、練馬区石神井台四丁目から七丁目地内の延長 531m、新青梅街道において低騒音舗装工と歩道改善及び自転車レーンの設置を行った。

この工事の中で、一般利用者及び地元住民への負担を減らすためにいくつかの取組を実施している。

2. 1 工期短縮に向けた早期現場着手のための取組

道路工事を実施する上で工事が長引けば、その分利用者や地元には負担がかかることとなる。

今回の工事では、受注者も工期短縮に向けての強い意欲がある会社であったため、工期短縮を目標のひとつとして掲げ、早期現場着手に向けて受注者と連携しながら、様々な工夫を行った。

まず、着工前の段取りにおいては、施工計画書や材料承諾を迅速に整理・確認、道路工事等協議書の余裕をもった提出など、事前に必要な書類関係を早期に整えた。

これは、現場代理人が一人で書類を作成するのではなく、会社のバックアップ体制が整っていること、また、協議書等も外注せずに自社で一貫して作成することで、作成・修正をスムーズに実施することができた。

次に、ICT 測量を実施することで測量に係る時間の短縮や安全性の向上、得られたデータから縦横断計画等を作成し、効率的な施工管理を可能とした。



図－1 案内図

さらに、ASP を活用し、書類のやり取りや修正にかかる負担を減らし、効率化を図ることで、工事の生産性を向上させた。

2. 2 一般利用者及び周辺住民への配慮

工事を実施する上で、工事のお知らせは、周辺広範囲に配布し、情報の早期提供に努め、利用者や地元住民への周知は丁寧に実施した。

特に車両乗入れ部を施工する場合には、該当する住民の方々へ個別に訪問・説明を行い、理解を得たうえで施工を行った。

また、街きょ施工時には、横断歩道部に段差解消マットを設置し（写真－１）歩行空間の確保や導線のわかりやすさにも注意を払い、安全に通行できるよう対策を実施した。

施工中は、騒音・振動計を設置し、利用する通行者に対しても、どの程度の騒音や振動が発生しているかを目に見える形で示すとともに、作業員も常に状況を確認しながら作業を進めた。（写真－２）

使用する重機・設備は低騒音型機械や防音パネルを選定し、住宅に近接する作業については極力音を抑える配慮を行い、夜間作業でも特に大きな音の出る作業に関しては、24 時までには終わらせるなど、周辺で生活をされている方への負担が少なくなるような施工に努めた。（写真－３）

3. まとめ

これらの取り組みにより、当初予定の工期から約 3 か月前倒して工事が完了し、近隣住民への負担の軽減とともに、騒音等に対する苦情を最小限に抑えることができ、地域の皆様に安心して工事を受け入れていただけたと感じている。



写真－１ 横断部の安全対策



写真－２ 騒音・振動計



写真－３ 防音パネル



写真－４ 施工前



写真－５ 施工後